

## 漫画登場人物の「キャラ」と話し言葉

福池 秋水

### 要旨

本研究は、漫画作品を題材とし、登場人物が多様な人間関係の中でどのようなキャラとして描かれているか、そこでどのような言葉遣いが用いられているかを観察し、まとめたものである。本研究で観察対象とした登場人物は、職場の上司や同僚、恋人、親という異なる関係の相手と対する際に少しずつ異なるキャラを見せ、言葉遣いにもそれぞれの特徴があった。これらのキャラが複合して全体としての人物造形に寄与し、立体的で深みのある表現が実現している。実際の間関係にも同様のことがいえるが、自然会話では観察しにくい「一人の人物の中にあるさまざまなキャラ」が見られることが漫画を題材にした利点であった。日本語教育への示唆として、このような点を活かした教材作成の可能性が考えられる。

【キーワード】 キャラ、キャラクター、話しことば、スタイル、漫画

### 1. はじめに

日本語のバリエーションの中で、細かい表現の違いが発話者の性格やその場面・状況での人間関係・役割を表すことがある。例えば、一人称の「俺」「僕」「私」「あたし」、終助詞の「よ」「ぞ」「ぜ」のような、意味としてはほぼ変わらない語群の中からどれを使用するかということによって、聞き手に与える話者のイメージは異なる。筆者は、福池（2022）で先行研究や日本語教材を概観し、このような断片的な人格の一側面が「キャラ」と呼ばれていることを整理した。また、フィクション作品においては断片的なキャラを重層的に描写することや、日本語教育において、キャラと結びつく言葉を積極的に取り入れようという教材も出版されていることを確認した。そして、先述した一人称や終助詞など、「キャラと結びつく言葉遣い」を「キャラことば」と仮に呼ぶことにした。

日本語学習者が自分に合う言葉遣いで話せるようになるには、このようなキャラことば、あるいはキャラという概念そのものについての理解が必要だと思われるが、明示的に教授することは難しい。一つの理由は、ある言葉遣いがどのようなキャラと結びつくかは文脈に依存するところも大きく、言語的知識として整理することが難しい点にある。また、ある人物がさまざまな側面（キャラ）を持ち、相手や状況によって異なる言葉遣いやふるまいをすることを理解することも重要だが、その実例を実生活の中から提示することは難しい。

この「文脈の中で例を提示する」「一人の人間のキャラが複数存在することを見せる」という点で、漫画やアニメ、映画、ドラマ、小説などのフィクション作品を利用することには意義がある。実生活では、自分のいないところである人物がどのような言葉遣いやふるまいをしているかを観察する機会は少ないが、フィクション作品の中では読者や視聴者は登場人物の重層的な生活を覗き見ることができるのである。

もちろん、フィクション作品にも著作権や学習者の好みの問題があり、そのまま生教材として一斉授業に用いるには適していない。このように考えると、学習者が日常的に作品を楽しみながら、キャラことばにも意識を向けてインプットしていけるような自律的な学びを支援するやり方が適していると考えられる。例えば、例示として短いストーリー性のあるオリジナルの作品を作成し、その中で登場人物の特徴的な話し方の表れ方を確認していくような教材が考えられる。

そのような教材開発の前段階として、実際に学習者が接し得るメディアの中で、キャラがどのように表れているかを確認したいと考えた。そこで、本論文では、例として漫画作品『きのう何食べた?』を取り上げ、その主人公がさまざまな人間関係の中でどのようなキャラとして描写され、結果として立体的な人物造形がなされているかを見ることで、漫画という形式がキャラことばの教材に適しているかどうかを考えていきたい。

## 2. キャラと日本語教育

### 2.1 「キャラ」の概念

「キャラ」という語は、今日では、特に若者を中心に広く用いられている。瀬沼（2009）は、毎年発行される事典である『現代用語の基礎知識』（自由国民社）を調査し、現在用いられていると同様の意味で「キャラ」が掲載されたのは1999年であることを明らかにしている。その項では、キャラという語は芸能人の芸風やイメー

ジを指す業界用語であったものが実社会にも転用されていると解説されているという。

瀬沼(2009)ではまた、若い世代のグループを対象にインタビューを行っている。インタビューの結果、ほとんどの若者が自分や友人の「キャラ」を答えることができ、多様な「キャラ」の種類が挙げられたこと、「他の友人の前でキャラが変わる」という回答は「変わらない」よりは少ないが、「先輩の前ではいい子キャラだが友人の前ではお笑いキャラで、どちらも自分」というような興味深い説明があったことが報告されている。

荻上(2008)は、「アイデンティティ型自己モデル」と「キャラ型自己モデル」という概念を用いて若者の自己意識を分析している。アイデンティティ型自己モデルは、一貫した「《らしさ》に基づく成長」というロールモデルを持ち、自分の内面から家族の形成、職業人としての成長までが地続きであるという考え方である。それに対し、キャラ型自己モデルは状況に応じてキャラを使い分けるというものであり、相手や場面に応じて、自分の持ついろいろなキャラの中から異なるキャラを見せることが重要になる。このようなキャラ型自己モデルが主流のコミュニティでは、一つのキャラで固めてしまう者には「空気が読めない」等のマイナスの評価が与えられるという。

このように、人間関係において、キャラが意図的・非意図的に切り替えられているということが先行研究から指摘されている。

## 2.2 キャラとことばの結びつき

定延(2011)では、「ことば」「イントネーション」などの言語表現のほか、姿勢や手振り、行動全般にもキャラが現れるとしている。しかし、本研究では主にことばとキャラの結びつきについて考えてみたい。

定延(2018b, 2020)は、コミュニケーションにおける人間は、状況に応じて非意図的に変わり得るという立場から、「スタイル」、「人格」、「キャラ」はそれぞれ別のものであるとする。上司には丁寧体で、部下には常体で話すなどの変化はスタイルの変化であり、公然と切り替えて差し障りがないが、人格は人間の一部であり、記憶の途絶などよほど重大な事にならない限り変わらないという。そして、キャラはスタイルと人格の間に位置づけられる。キャラとスタイルの違いは、公然と変えても差し支えないかどうかであって、自分があるキャラを見せている相手が別のキャラを見せ

ている場面に来ると居心地が悪くなることから、キャラはスタイルと比べて「変える」ことにためらいが生じるものであるとされている。

実際の言語表現とキャラとの関わりについて、定延（2018a）では、以下の4種に分けて論じている。1)キャラをことばで表すもの：幼児性を残した成人を「あの人は子供だ」と表現する場合等。2)ある人物の発話はそのキャラを表現する場合（「キャラ発話」）：老人が「わしじゃ」と発話する等。3)キャラクタの動作をことばが表すもの：「ほくそ笑む」等の表現。4)ことばがキャラクタの思考を表すもの（「思考キャラクタ」）：「上品な女」キャラが「わたくし、『おかしいぞ』と思いましたの」と、思考を表す部分に他のキャラの言葉遣いを使うような例。

このうち、2)のキャラ発話の概念は、金水（2003, 2014）の「役割語」の概念とも重なる部分がある。役割語とは、特定のグループ（性別、年齢、職業等）のイメージと特定の言葉遣い（語彙、語法、イントネーション等）が結びつくという概念である。役割語の例として「宇宙人」や「忍者」の言葉、あるいは実際に老人が使うとは限らない「わしは～じゃよ」のような言い回しが挙げられるため、役割語はフィクションの中の言葉遣いのみを指すと誤解されやすいが、定延（2020）は、「濃淡の程度差はあれ、すべてのことばは『役割語』と考えることができる」（定延, 2020, p.183）とする。

メイナード（2017）は、ポップカルチャーにおける「キャラ」と「キャラクター」を別のものとし、話者を、比較的安定したキャラクターと流動的なキャラの複合したものとして捉える。すなわち、キャラクターとは一般的に登場人物と言われる物語内の人物像である一方、キャラはステレオタイプ化されたキャラクターの一側面であるとする。そして、キャラはキャラクターの一要素として付加されることが多く、同じ言語行為でも、それが一貫していればキャラクターにつながり、一時的であれば登場人物の一側面であるキャラ表現として機能するとしている。例えば、普段は「お嬢さん」キャラクターではない人物が「お嬢さん」風の言動を一時的に使う場合、後者のケースをキャラ表現と呼ぶ。これらの論を踏まえて、メイナード（2017）は、キャラクター（キャラ）を立てるための表現上のストラテジー（言語表現、レトリック、会話行為など広義の表現手段）を「キャラクター・スピーク」と名付けた。

### 2.3 キャラと日本語教育

定延（2011）が整理したキャラとことばの関係のうち、「あの人は子供だ」という

言い回しや、「彼はじっとたたずんでいた」のような語彙の選択によって対象にキャラを付与する表現については、従来の語彙教育の範囲として対応が可能と思われるが、「キャラと結びつく発話」についても、より明示的な教育があってもよいと考える。

母語以外の言語を学ぶ目的の一つは、その言語を通じて自分自身を表現することである。特に、その言語を使って生活し、社会に参加する中では、人からどう見られたいかを意識し、自分がどのような日本語の使い手になるかについての選択を各自が行えることが望ましい。漫画やアニメ、ゲームなどのポップカルチャーから日本語を学ぶ学習者も多いが、そこで用いられるさまざまなキャラことばの中から、自分の状況にふさわしい語を選択できるかどうか問われる場合もあり得る。言葉遣いの選択から、本人が意図しないキャラを付与される可能性を考えると、「キャラ」や「キャラことば」の概念を教育する必要性が浮かび上がる。

定延 (2018a) は、「キャラクタという概念はどのような人間の社会にも存在するが、さまざまな状況に対応していく人間の内部で、キャラクタがどの程度変わり、どの程度目立つのかは、言語社会ごとに違っている」(定延, 2018a, p.40) と述べ、日本語社会では比較的キャラが変わりやすいとしている。そうであれば、日本語学習者にとって、キャラの概念を学ぶことがよりよい自己表現に資すると考えられる。

とはいえ、文型や語彙のような学習項目と異なり、キャラことばは文脈から切り離して教えることが非常に難しい。一人称「僕」は男性の一人称と一般的に言われているが、女性が全く使用しないわけではなく、その時にどのような印象を与えるのかということは、話者のビジュアルや場面や状況によって異なる。母語話者や言語習得のセンスがある学習者であれば、この「僕」のニュアンスを感じ取り、自分が使うか使わないかを判断することが可能かもしれない。しかし、そうでない学習者にとって、膨大なインプットの中でキャラの表現と言葉遣いのつながりを読み解き、その中から自分のキャラに合う言葉遣いを選択することは難しいことが推測される。そうした学習者への支援として、作品の中でどのような点に注目するとキャラとことばの結びつきがわかるかを手引きするような教育があれば大いに手助けになると考えられる。

### 3. 本研究の題材

#### 3.1 漫画を取り上げる理由

近年、ポップカルチャーが日本語学習の動機になったり、それ自体が学習ツールとして活用されたりすることも一般的である。国際交流基金（2020）によれば、2018年度に海外の日本語学習者を対象に行った調査の結果、日本語学習の動機として「マンガ・アニメ・J-POP・ファッション等への興味」が66.0%でトップとなっている<sup>(1)</sup>。ポップカルチャーには漫画、アニメ、映画、ゲーム、ポピュラー音楽など多様なものが含まれる<sup>(2)</sup>が、本論文ではそのうち漫画を取り上げ、その中でどのようなキャラとことばの結びつきが見られるかを観察し、教育への活用の可能性を探る。

漫画を取り上げる理由は、一つには、音声ではなく文字で言葉が表現されるため、学習者がじっくりと言葉に着目できる点が挙げられる。また、ビジュアルからの情報が適度な支援になる点も強みである。映画やドラマのような映像作品では登場人物の発話以外の情報量が多く、小説や戯曲のような文字の作品では地の文で書き表されることがセリフより多いことがある。それと比較すると、漫画は文字であらわされる発話と絵やコマ割りなどビジュアルからの情報とのバランスが適度で、教材への活用に適していると考えた。

### 3.2 題材と選定理由

本論文では、漫画作品『きのう何食べた？』（よしなが，2007～）を題材に、登場人物が状況によってどのようなキャラとして描かれているかを観察する。この作品を選定した理由は、まず、主人公の日常的な生活が家庭・仕事・友人関係と様々な場面や人間関係の中で描かれていることが挙げられる。また、作品の舞台が現代の東京で、題材にSFやファンタジーのような非現実的な要素が少なく、日常会話のサンプルが多いこと、作者がインタビュー等で登場人物の人物造形や話しことばをよく考えて作り上げていると語っている<sup>(3)</sup>ことから、現実に近い話しことばが記述されていると考えられることも要素である。

作者のよしながふみは1971年生まれで東京都出身である<sup>(4)</sup>。本作品は、主人公である弁護士・笈史朗（以下、史朗）の日々の生活が、同棲する恋人の美容師・矢吹賢二（以下、ケンジ）との食生活を中心に、1話完結のエピソードを基本として綴られている。作中で描かれる場面は主に、ケンジとの家庭生活、職場である弁護士事務所の同僚や依頼人等とのやりとり、同じ都内に住む両親との交流、友人との交友関係等があるが、本論文では、「職場」「恋人」「親」の人間関係に主に焦点を当て、その中で史朗のふるまいや相手からの捉えられ方、言葉遣いについて記述していく。

### 3.3 題材の範囲

本作品のような 1 話完結のシリーズの場合、登場人物の年齢等をあいまいに描くことで作中の時間の流れを意識させないようにする手法もあるが、本作品では作中では 1 巻につき 1 年弱のペースで時間が流れている。登場人物の年齢も明示的に描写され、連載開始時に 43 歳であった寛は、第 13 巻で 53 歳になり、第 18 巻では「四捨五入して 60 歳」という記述がある<sup>(5)</sup>。扱うテーマも、年中行事の過ごし方の変化や親との関係の変化がテーマになる回があり、はっきりと時間の流れが示されている。各エピソードは回想シーンを除いては基本的に時系列で並べられ、史朗と周囲の人々との関わりが、時間とともに変化しながら描かれている。作者自身も、意図的に登場人物の成長や関係性の変化を描こうとしていることを語っている<sup>(6)</sup>。

このように本作品では登場人物の成長や考え方の変化が作者の意図的な表現であることを考慮すると、現在刊行されている第 20 巻までの 15 年以上に渡る作中時間の中での登場人物の振舞いを共時的に論じることには疑問もある。そこで、本論文では、史朗については作者がケンジや両親に対する態度の変わり目だと述べている第 6 巻までを観察の対象とし、特に時の経過による変化について述べる場合はそれ以降の巻の内容も使用する。

## 4. 寛史朗のキャラと話し言葉

### 4.1 史朗の人物設定と自意識

『きのう何食べた?』の主人公、寛史朗は、東京都内の弁護士事務所に所属する弁護士である。大手の事務所に所属して仕事に忙殺されるよりも「そこそこの収入で人間らしい暮らしのほうがいい」(1 巻, p.15) と考え、できるだけ定時で退勤して自宅での料理を楽しんでいる。同性の恋人ケンジと長年同居しているが、親以外にはほとんどそのことを明かしていない。この「カミングアウト」(性的指向等について公表すること)と「親との関係」は、連載初期のテーマの一つとなっており<sup>(7)</sup>、本論文で取り上げる 1~6 巻の間でもしばしば取り上げられている。

また、作中、史朗が他人からどう見られるかを気にする描写が頻繁に登場する。表 1 にその例を挙げる。自分の見た目がいいことを自覚し、それを保ちたいという意識がある一方、相手から好意を寄せられることを警戒する自意識過剰な面がある。また、自分が「男らしくない」と思われることも気になるが、「お弁当が可愛くない」

と言われるとそれにも動揺するという揺らぎが描かれている。

表1 箕史朗の自意識に関する描写の例

巻	話	内容
1	2	初対面の人の前でスイカを食べることになり、自分のスイカの食べ方は「ゲイっぽい」のではないかと、「男らしく」かぶりつくべきではないかと悩む（「こういうものすごく気にするタイプ」と手書き文字で注釈あり）。
1	5	太らないように気をつけているが、そのことで同年代の中では浮いてしまう。職場では「メタボリックが怖いから」と言い訳している。
1	6	料理中、「盛り付けが雑だけどこの方が男っぽいのか？それともオバサンぽくて男らしくないのか？」と悩む。
2	9	ケンジと知り合う前の話。自分がもてる方だと思っている。「もう40だけどまだ若く見えるし顔も悪くない」
3	20	若い女性の司法修習生の指導役になり、その修習生が自分に好感を持つてしまうのではないかと心配して発言に気を遣う。
4	25	友人カップルとケンジの4人で外食するが、会話の内容等から周囲の客にゲイだと思われたのではないかと気にしている。
4	26	客を招いて食事会をすることになったので高い食材を買おうとするが、高すぎて買えず、見栄を張らずにいつも通りの食事を出そうと考え直す。「何見栄張ってんだ俺」「こういうことでうじうじちまちま悩んでるからいつまでも俺は器の小さい男なんだ」と自分に言い聞かせる。
5	36	友人になった小日向と食事をするることになり、口説かれたらどうしようと気を回す。
5	37	友人の結婚式に出席するが、独身だと知れると女性が近づいてきて困るので、指輪が欲しくなる。
5	37	ケンジと宝飾店に指輪を買いに行くが、男二人で指輪を買うのを恥ずかしいと感じている。
6	43	自作の弁当が可愛くないと言われてうろたえる。

#### 4.2 職場における史朗のキャラと話しことば

史朗の職場は弁護士事務所で、1～6巻の時点では史朗以外に所長の美江（以下、大先生）とその息子の修（以下、若先生）が弁護士として在籍するほか、事務員の志乃が働いている。作中、これらの事務所のメンバーが史朗について評する場面が度々描かれる。例を表2に挙げる。総合すると、「お金のかかった生活をしていそうで自分の容姿にも気を遣うナルシスト。彼女がいるので定時に帰りたがり、彼女とケンカするたびに落ち込んでいる。やりがい求めず仕事をしている風でいて、仕事はきちんとするし、実は依頼人思い」というのが、事務所で共に働くメンバーから見た箕の姿といえる。



表2 職場のメンバーから見た史朗の印象の例

巻	話	評者	内容
1	1	大先生	いつもイソイソと帰る。彼女と付き合って3年は経つはずなのにアツアツ
1	1	志乃	マメマメしくやってそう
1	1	志乃	あの若さと美貌は気持ち悪い
1	5	志乃	スタイルキープに気を使ってそう
1	5	大先生・若先生・志乃	ナルシストなのはわかってる
1	7	大先生・若先生	口ではいろいろ言っているが仕事熱心だ
1	7	大先生・若先生・志乃	フットワークは軽い（大先生）マメだ（若先生）それもすべて6時に帰るため（志乃）
2	11	大先生・若先生・志乃	きっと彼女とケンカして落ち込んでいるのだろう
4	25	大先生・若先生・志乃	また彼女とケンカしている
4	25	志乃	彼女とケンカしても仕事に影響ないのが可愛げない

言葉遣いの面では、大先生には敬体を使用するが、一人称は改まり度の低い「俺」であり、「そんじゃ」などの口語的な表現も多用されている（発話例1,2）。年少または同年代と思われる若先生には常体で話し、「～ちまう」といったくだけた表現の使用や、裁判の結果に落ち込む若先生を諭し励ますような行動も見られる（発話例3）。

史朗の言葉遣いは、特に年齢からも職位からも目上の存在である大先生に対しては、ややぞんざいな部分もある。しかし、このような言動は、職場のメンバーからの史朗の評価と合わせ、史朗が職場内で、「鼻につく部分もあるが仕事はきちんとする」というキャラが定着しており、そのために丁寧ではない言葉遣いすらキャラに合うものとして受け入れられているという人物造形の一部と考えられる。

発話例1

史朗	： さーて 俺はもう帰るとすっか!
若先生	： えっ何？ 箕先生 もう帰んの？
史朗	： 帰るよ 今日の仕事は全部済んでるし そんじゃ お疲れ様です 失礼します
大先生	： ハイ お疲れさま 箕先生

『きのう何食べた?』1巻 p.7

## 発話例 2

大先生：という事で今度私が 預かるのは女性の 修習生なわけだけど  
あたしはもう年で 抱えてる案件も 少ないから 算先生あたしの代  
わりに その修習生の子 見てあげてちょうだいね  
史朗：えっ!? その話の流れで 俺に女の子の 面倒を見させるって 変じゃ  
ないですか!?

『きのう何食べた?』3巻 p.59

## 発話例 3

若先生：9年なんて…  
史朗：え!?  
だって求刑が 懲役15年に対して 9年の判決だよ!? けっこういい  
セン行ったよ 若先生!!  
(中略)  
史朗：今回みたいな 裁判員裁判の公判は たった3~4日で 判決が出ちま  
う 急に目撃証言が出てきても 簡単に判決は ひっくり返せないさ  
『きのう何食べた?』6巻 pp.61-62

史朗の態度は、弁護士業務の依頼人に対しては一変する。第25話(4巻)では、ケンジとの気まずいやり取りの翌日、落ち込みながらも依頼人への対応ではキャラが切り替わる様子が描かれる。発話例4で依頼人に折り目正しい対応をした直後、職場で落ち込む史朗に対して周囲の事務所メンバーは「また彼女とケンカして落ち込んでる…」(4巻,p.8)等と気を回すが、依頼人から電話がかかってきたことを告げられると「あ すぐ出る まわして」(手描き文字のオノマトペ:がぼっ しゃきっ!!)と瞬時に態度が切り替わり、電話を取り次いだ志乃が「まったく 仕事に影響無いのが可愛げないのよ」と心内で呟いている。

このように史朗は依頼人に対しては常に冷静な態度で弁護士としての職務を全うし、言葉遣いも丁寧体をベースとし、一人称を「私」とし、相手に対する尊敬表現も使用している。依頼人からの信頼もあり、発話例5では、離婚手続きの依頼人が、史朗の寄り添う態度に特に感謝している描写がある。

#### 発話例 4

依頼人 1：どうも先生 本当に ありがとうございます!!

依頼人 2：ありがとうございます。

史朗：いえもう どうか

すぐに釈放されたのは お嬢さんが警察で 毅然とした態度で いらしたからですよ 本当に若いのに しっかりしたお嬢さんだ

『きのう何食べた?』4巻 p.7

#### 発話例 5

逸見：あ、あの…

僕ずっと先生に お礼を言わなきゃと 思ってたんです 実はけっこう 周りに 言われてたんですよ

「男のくせに女房に 黙って殴られてるなんて だらしがない」って でも男だから余計に女性に 手は上げられないし 殴られてるうちに逃げる 気力すら無くなってしまって…

史朗：? ええ… そうですよ

逸見：でも先生は僕に 「だらしがない」とは 一言も おっしゃらなかった …本当に 救われました ありがとうございます

史朗：とんでもない

私は弁護士として 当然の仕事を ただけですから

『きのう何食べた?』1巻 p.135

以上のように、職業人としての史朗のキャラは、職場の身内しかいないところでは「鼻につく部分もあるが仕事はきちんとする」キャラ、依頼人と対するときには「親身になって話を聞いてくれる有能な弁護士」キャラであり、それぞれに言葉遣いが使い分けられている。

#### 4.3 恋人との関係における史朗のキャラ

史朗は年下の恋人・ケンジと同居している。ケンジに対する史朗の態度は、特に連載の序盤では、高圧的な物言いが目立つ。発話例 6 は、物語の第 1 話でのケンジの初登場場面であり、小言の多い史朗とマイペースなケンジの性格や関係がよく表れたやり取りになっている。史朗の言葉遣いは非常にぞんざいで、一人称「オレ」、二人称「お前」のほか、「賄え」「食うな」といった命令や禁止の形を使用している。発話の内容も自分のルールや食事の感想を押しつける等、細かく口うるさいキャラに描かれている。

発話例 6

史朗	：毎日ガサガサ レジ袋の音させやがって お前またコンビニで ムダなもの買ったな? 何だ!?アイスか!?
ケンジ	：あ?え?え——と ハーゲンダッツ…
史朗	：ハーゲンダッツは 駅前のスーパーで 金曜になりゃ 2 割引きになるのに 何で コンビニで正価で買うんだよ!?
ケンジ	：…… 新製品だったんだよ…
史朗	：そうか そのアイス代は うちの家計からは 出さない その代金は お前のこづかいで賄え (中略)
史朗	：てか オレの作ったメシを そんなまずそうに 食うなよお前 うまいだろ?あまからすっぱいの バランスが取れてて 一品一品の味もいい!
ケンジ	：…… あ——… ん~~~~… バランスとかは 全然分かんないけど この炊き込みごはん すっごいおいしい~~~~! おかわり~~~~
史朗	：ダメ!肥る!

『きのう何食べた?』1巻 p.16

しかし、ケンジから見た史朗の評は、「お金が好き」「見栄っぱり」など欠点めいたものもあるものの、口うるさいことや押しつけがましい態度についての否定的なものはなく、むしろ「頼りがいがある」「男らしい」等、好意的に評価されている。ケンジにとって史朗は「ケチで見栄っぱりなところもあるが、ハンサムで頼りがいがある料理が上手な恋人」として映っているようである。

表 3 ケンジから見た史朗の印象の例

巻	話	評者	内容
1	1	ケンジ	お金が好き
1	3	ケンジ	超かっこいい、背が高い、ハンサム、頼りがいがある、料理が上手
1	3	ケンジ	見栄っぱり (怒鳴る前に窓を閉めることについて)
6	45	ケンジ	三次元の冴羽獠 (男らしくてかっこいい)

史朗は常にケンジをぞんざいに扱うわけではなく、礼を述べたり、自分の弱みを見せたりする際には語調も穏やかである。発話例 7 は発熱した史朗にケンジが作った料理を食べての感想、発話例 8 は史朗の父親が病気で手術することになったという場面での会話である。このような場面では史朗の口うるささや高圧的な物言いは鳴りをひそめ、「～でもいいかな」という婉曲な依頼表現が用いられ、実際には熱で味がよくわからないのだが「ウマイよ」とねぎらいの言葉が出たりしている。

#### 発話例 7

史朗 : すごいウマイよ  
          ありがとな ケンジ

『きのう何食べた?』4巻 p.56

#### 発話例 8

史朗 : ケンジ  
          父親の事で何かあった時 話聞いてもらってもいいかな  
          話を聞いてくれるだけでいいんだ

ケンジ : うん  
          聞くよー もちろんだよ シロさーん

史朗 : うん ありがとう

『きのう何食べた?』2巻 p.130

総合すると、ケンジに対する史朗のキャラは、多くの場合は強気で厳しい態度に出ているが時に優しさや弱みを見せるというものであり、いわゆる「ツンデレ」と呼ばれる属性に近い。辞書によれば、ツンデレとは、「普段はつつんと取り澄ましているのに、何かのきっかけででれでれと親しげな態度をとること。また、そのような人」（北原編 2020）を指す用語である。史朗の描写も、日ごろの厳しく口うるさいキャラと、優しさや弱みを見せるキャラが複合して、その人物造形に深みを与えている。メイナード (2017) ではこのようなツンデレ属性の登場人物の分析を通じて、話者が複数のキャラを内包する「話者の複合性」を指摘している。

ケンジに対しては強く出がちな史朗だが、これは恋人全般に対するものではないことが作中で描写されている。発話例 9 では、昔の恋人であるノブと現在の恋人であるケンジに対し、それぞれの相手が買い置き食材を使ってしまったという同じ状況における史朗の反応の違いが対比されて描かれている。史朗はノブに対しては抗

議するものの言い負かされてしまう。一方、月日が流れた後、同様のことがケンジとの間に起きた際には、軽い言い合いの後、ケンジが自主的に買い物に出ていく。

#### 発話例 9

史朗 : ノブさんっ!!ノブさん!!  
          ねえノブさん 冷蔵庫の 鶏モモ肉 食べた!?

ノブ : ……

史朗 : 食べた!?

ノブ : ああ 食べたよ!!それが何か!?

史朗 : 俺 朝出かける時 鶏モモ冷凍室から 冷蔵室に移して 今日はこちら  
          で オープン焼きにするから って言ったよね!?

ノブ : そんなの 聞いてないね!!

史朗 : 言ったよ!!  
          ノブさんも うんって 返事してたよ!!

ノブ : 聞いてないし そんな返事も していない!!  
          大体 食費の半分は 俺も払ってるだろ!?自分の名前を書いた プリン  
          じゃあるまいし 自分も金を出してる 食材を喰うのに なんてお前の  
          許可が 要るんだよ!?

史朗 : だっ……!!  
          ………  
          ………

史朗 (心内) : あゝ ~~~!!  
          ちっくしょ~~~!! 言い返せない!!なぜならノブさんが 渋くてかっこ  
          いいから!!  
          うううう この好みのタイプの男だと 何でも言うことを聞いてしま  
          う自分を 変えてゆきたい~~~!!  
          (中略 現在の場面に移行)

史朗 : …ケンジ

史朗 : もしかしてお前  
          玉ねぎ使った…?

ケンジ : 使っ…  
          ホラあの シロさんこないだ お仕事メシでいなかった時 あった  
          じゃない!? その時俺 玉ねぎ 1 個 丸々使ってしょうが焼き 作っ  
          ちやって…!!

史朗 : いーや!! その時点で 2 個あったはずだぞ 玉ねぎ!!

『きのう何食べた?』16 巻 pp.25-32

過去と現在の場面間のナレーションでは「結局シロさんの性格は変わりませんがケンジが全然好みのタイプじゃないため今はシロさん結構言いたい事を言って快適に暮らしています。」とあり、史朗のキャラの違いが、本人が意図的に行っていることでも、性格の変化でもなく、その時々相手との関わりが影響していることが描かれている。言葉遣いについても、ノブを問い詰める際には終助詞「よ」「よね?」、ケンジにはより男性性の強い「ぞ」が用いられており、ケンジに対してのほうが態度が強いことを示している。平野 (2012) は、「個人」の中にある複数の人格のようなものを「分人」とする概念を提唱し、「分人」とは相手や環境によって自然と引き出されるものであって、演じたり仮面をかぶったりすることとは異なるとしている。この「分人」の概念は「キャラ」と近いところにあると解釈できる。発話例 9 のようなエピソードは、史朗が自らのコントロールの外で言動が自然と変化していることを示している。

#### 4.4 親との関係における史朗のキャラ

最後に、両親との関わりの中で見られる史朗のキャラについて観察する。本論文で扱う 1～6 巻の間の史朗と両親の関係は、陰悪なものではないが良好ともいえない。母親がたびたび電話をかけてくるが、史朗の性的指向を理解しているそぶりを見せて的外れなコメントをしてくるので史朗がイライラしている (1 巻)、史朗が実家に帰りたくないと言ふ (3 巻)、ケンジを紹介するように強要される (6 巻) などのエピソードが描かれている。一方、父親の手術の日には仕事を休んで立ち会い、経済的問題に対しては仕送りを提案するなど、両親が困っている際には史朗が積極的に援助する姿勢も見られる。両親による史朗の評をまとめると表 4 のようになる。両親から見た史朗は、昔から意志が強く、反抗することもなく育ち、今でも他人からうらやましがられるようなよい息子であり、ただ、「女の子みたい」なところが目に付くと残念な気持ちになる存在であるといえる。

表4 両親から見た史朗の印象の例

巻	話	評者	内容
1	8	母	手土産に対して「こういうことに気が利きすぎるってちょっと女の子みたい」
1	8	父	昔から意志の強いところがあった
5	49	母	(料理の手際について) 女の子だったらいい話だった。うれしくないわけではないけど。
7	50	父	よく勉強する子だった。母親は喜んでたが自分は内心あきれていた。ほかにやりたいこともあるだろうによくこんなに勉強するものだ。 いつも思いつめた顔をしていたが親を邪険にして口をきかなくなったり反抗したりする子じゃなかった。
7	120	母の友人	いい息子でうらやましい。

両親に対する史朗の態度や話し方は、仕事中的のものともケンジの前でのものとも異なり、言いたいことを最後まで言わせてもらえなかったり押し切られたりする様子(発話例10)が繰り返し描かれる。また、言葉遣いの面では、発話例11のように終助詞の「ね」を多用する優しい口調が特徴になっている。職場でもケンジにも見せていない押しの弱さが、両親の前では表出されているといえる。

発話例10

<p>母 : 史朗さん お願いよ!おモチときんとん 持って帰ってね!          史朗: あーじゃあ これぐらいもらってくわ 今うちの冷凍庫 肉と魚で          いっぱいで…          母 : お願いだから 持って帰って!          年寄り二人がどれだけの量食べれるかなんて 分かってるでしょう!?</p>
--

『きのう何食べた?』3巻 p.45

発話例11

<p>史朗: (電話で) 10月2日 9時から 東洋女子医大ね</p>
-------------------------------------

『きのう何食べた?』2巻 p.116

5. まとめ

本論文では、漫画がキャラことばの教材として適切かどうかを考えることを目的とし、漫画作品『きのう何食べた?』を題材に、主人公の史朗が職場の関係者・恋人・両親という異なる相手との人間関係の中で、どのようなキャラとして描かれているか、そこでどのような言葉遣いが用いられているかを観察した。観察によると、史朗



は、それぞれの人間関係の中で異なるキャラを見せた。これらのキャラは、どれか一つが「本当の史朗」ということではなく、どれも史朗がそれぞれやコミュニティや人間関係の中で自然に形成していったものであるといえる。

言葉遣いに表れる特徴として、終助詞「ね」「ぞ」「よ」や依頼・命令表現の使い分けが見られた。同じ常体の発話でも、ケンジに見せる強気なキャラの中では「ぞ」や命令形のような強い表現も見られるが、元恋人のノブや両親など、強く言えない相手や優しく接する相手にはそれらの表現は見られない。このような、キャラの造形に寄与する言葉を「キャラことば」として今後の研究でも取り扱っていききたい。

一方、変化の少ない点として、まじめで頼れると評されるキャラの要素や、依頼人の前以外では職場の所長に対しても一人称の「俺」を使用するということが挙げられた。このように、それぞれの相手の前で変わらない部分、変わる部分、いずれもが重層的に史朗の「口はよくないがまじめで頼りがいがあり、両親との関係がとても良好というほどではないが邪険にもしない程度に優しい」といった深みのある人物造形の要素となっていると考えられる。

本研究を通し、漫画には①さまざまな場面での登場人物のキャラの変化を見ることができ、②時間の経過によるキャラの変化を見ることができ、という特徴があることが確認できた。特に、目上の人間の前でも「俺」が使用できるという史朗の職場でのキャラや、一人の人物が、同じ「カジュアルな話し方」でも人間関係によって微妙に異なる表現を使うことでキャラが変わることなど、自然会話からでは観察しにくいことが漫画という文脈の中で示されたことは、日本語教育への活用の可能性を示唆している。

とはいえ、これらの結果は、単行本6冊に及ぶ漫画の観察から得られたもので、史朗という一人の人物のキャラの特徴を見たにすぎない。実際に同じことを授業の中で行うことは困難であり、かといって、学習者全員が自分だけの力でこれらの気づきを得ることも期待できない。史朗が職場でも「俺」を使用することは史朗のキャラを含めた周囲との人間関係の中で許されるふるまいであり、学習者がこのような場面を読んで「職場でも『俺』という一人称を使ってよいのだ」と文脈をそぎ落として解釈してしまうようなことは避ける必要があるだろう。学習者が自分の好きな作品を楽しみながら自律的にキャラと言葉の関係を学び取るには、その前段階として、短い漫画作品を題材に、キャラの特徴がどのようなふるまいや言葉と結びついているかを解説するような教材があることが望ましいと考える。

今後の課題として、『きのう何食べた?』については、今回取り上げなかった後半のストーリーも対象に、より長い時間の中でのキャラの変化を観察したり、依頼表現や終助詞のような具体的な表現が相手によってどう使い分けられているかを分析したりすることが挙げられる。また、他の作者の作品や、性別や年齢などの属性の異なる登場人物についても今回のような観察が可能かを考えていきたい。

## 注

- (1) 2021年の調査では第2位となっているが、第1位との差は0.2ポイントと僅差である。  
「2021年度海外日本語教育機関調査結果概要」  
[https://www.jpff.go.jp/j/about/press/2022/dl/2022-023-02\\_1228.pdf](https://www.jpff.go.jp/j/about/press/2022/dl/2022-023-02_1228.pdf) (2023年1月25日)
- (2) 外務省ウェブサイトによれば、「ポップカルチャー」には漫画、アニメ、映画、ゲーム、ライトノベル、ポピュラー音楽、テレビなどが含まれる。  
「ポップカルチャーで日本の魅力を発信！」  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol138/index.html> (2023年1月15日)
- (3) 作者のよしながふみは、自身の作品における言葉の大切さについて、対談の中で、「その言葉を口にしたときに不自然ではないものを選びます。」「語尾が「ね」か「よ」か「ぜ」か、点が3つなのか6つなのか、それともないのか。それは小さな違いなんかじゃないですよ。全然違うの。」と述べている。(よしなが, 2007, p.251)
- (4) よしなが(2007)の著者紹介による。
- (5) 第145話が雑誌に掲載された際、出版社の公式Twitterアカウントに「57歳の誕生日を迎えた」との投稿があり、この時点で史朗が計算上57歳になることがわかる。  
講談社「モーニング」公式アカウント 2021年2月25日  
<https://twitter.com/morningmanga/status/1364772641605881856> (2023.1.5 取得)
- (6) 作者本人による語りとして、講談社編(2021)では、作中8巻の京都旅行について「2人の関係性に影響を与える出来事が絡んでの旅」、9巻のおせち料理のエピソードについて「シロさんとケンジが”家族”になるという意味を込めて描きました。」などがある。また、よしなが(2022)では「七巻でケンジを両親のところに連れていくあたりがシロさんにとっては気持ちの境目というか、そこでケンジを大事にしようとする自覚的に思い始めたんじゃないかと思います」(よしなが, 2022, pp.333-334)等、登場人物の心境や関係の変化を時間経過とともに意図的に描いていることが説明されている。
- (7) 作者本人がインタビューで、連載当初にはどのように話を着地させるつもりだったかという質問に対し、「シロさんが母親に周囲にカミングアウトするつもりはないと告げて終わるつもりでした。」(よしなが, 2022, p.334)と答えている。

## 参考文献

- 荻上チキ (2008) 『ネットいじめ ウェブ社会と終わりになき「キャラ戦争」』 PHP 研究所
- 北原保雄 (編) (2020) 『明鏡国語辞典 第三版』 大修館書店
- 金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』 岩波書店
- 金水敏 (2014) 『〈役割語〉小辞典』 研究社
- 講談社編 (2021) 『劇場版 きのう何食べた？オフィシャルブック』
- 国際交流基金 (2020) 『海外の日本語教育の現状 2018 年度 日本語教育機関調査より』 国際交流基金
- 定延利之 (2011) 『日本語社会 のぞきキャラくり』 三省堂
- 定延利之 (2018a) 「キャラ論の前提」 定延利之 (編) 『「キャラ」概念の広がりと深まりに向けて』 三省堂, 10-45.
- 定延利之 (2018b) 「日本語社会における「キャラ」」 定延利之 (編) 『「キャラ」概念の広がりと深まりに向けて』 三省堂, 120-133.
- 定延利之 (2020) 『コミュニケーションと言語におけるキャラ』 三省堂
- 瀬沼文彰 (2009) 『なぜ若い世代は「キャラ」化するのか』 春日出版
- 平野啓一郎 (2012) 『私とは何か 「個人」から「分人」へ』 講談社
- 福池秋水 (2022) 「「キャラ」と日本語教育」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』 第 31 号, 103-116.
- メイナード, 泉子・K (2017) 『話者の言語哲学—日本語文化を彩るバリエーションとキャラクター』 くろしお出版
- よしながふみ (2007) 『あの人とここだけのおしゃべり』 太田出版
- よしながふみ (2022) 『仕事でも 仕事じゃなくても』 フィルムアート社

## 参考資料

- よしながふみ (2007～連載中) 『きのう何食べた？』 講談社

## 謝辞

本研究は JSPS 科研費 21K13046 の助成を受けたものです。

(afukuike@kansai.ac.jp)

